ドナルド・トランプ氏と言う催眠術師：説得（アンカリング）の達人

米大統領候補の筆頭であるドナルド・トランプ氏に対して、何を考えているか分からない傲慢で横柄なナルシストで、国のリーダーとしては相応しくないと言われがちですが、トランプ氏の発言には心理学的に説得性を増すテクニックが随所に散りばめられています。

今回はそのテクニックの中でもアンカリングと言う認知バイアスを掘り下げて行きたいと思います。

アンカリングとは、人が物事の決断や判断をする時に、最初に耳にした情報や一つの情報、印象に残っている情報に気を取られてしまいがちと言う意味です。このバイアスの厄介な所は、その情報の正しさに関係なく、無意識に影響を受けてしまうと言う事です。

まるで船の錨が落とされたように、決断や判断と言う船の自由が狭まってしまうのです。

さて、トランプ氏の発言を例に、彼は頻繁に「私の総資産は１兆円だ！」と発言し、「そんなに無いだろ」と批評家に批判されるわけですが、トランプ氏が１兆円を持ってようがいまいが、これを聞いた人の頭の中で一兆円と言う数字が印象強く残り、漠然と「莫大な資産を築き上げた出来るビジネスマンなんだな」と言う錨が人々の頭に落とされるわけです。

他にも、トランプ氏は長い間、ロージー・オードネルと言う女性のコメディアンと敵対関係にありました。そんな中で、とある大きなディベートでレポーターに「今までの女性に対する悪口や軽視をどう思っているか？」と言う質問を受けました。大体の政治家であれば「申し訳ないと思っている」と言う所をトランプ氏は、「俺が悪口を言うのはロージー・オードネルに対してだけだ」と言って会場を笑いの渦に巻き込んで空気を持って行きました。この発言の後に今までの女性に対する悪口の事は謝罪しましたが、最初の発言により、過去の過ちを認めて謝ったと言う部分がほとんど打ち消されたと言うわけです。

アンカリングを打破するためには、視野を広げて選択肢を広め、物事をより深く理解する必要があります。トランプ氏のケースですと、彼の事をもう少し調べてみてどんな人物なのかとより彼の事を知る事が必要になるでしょう。